



# 木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2024年9月29日(日) 第128号

「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



## 第2回 連続セミナー

「構造化の実際～ひとりでできるを支える環境～」

社会福祉法人大和しらかし会サービス管理者

五味 純子 氏

7月に行われた第2回連続セミナーでは、TEACCHプログラム研究会神奈川支部、社会福祉法人大和しらかし会、臨床心理士、公認心理師の五味純子先生をお招きしてTEACCHプログラムの核である「構造化」について教えていただきました。自閉症の方は意味理解の障がいであること、本人がどのような理解をしているのか学習スタイルを知ること、本人がわかりやすく安心して一人でできることがふえるなど構造化に関する基本的なことを今回のセミナーから学びました。受講生の皆さんからの質問に対して必要な情報を聞き取り、わかりやすく、具体的に助言してくださる姿に感銘を受けました。

### 自閉症＝意味理解の障がい

- 目に見える具体的なものには強いが、目に見えない抽象的なことの意味理解が困難。
- 意味が分からないことは、怠けやわがままではなく、恐怖や退屈以外の何ものでもない。
- 独特な感じ方、考え方、まだら理解をしている場合があり、個々に特徴や特性を把握して、意味が分かる支援が必要である。

### 学習スタイルの特徴

- 一人一人を理解するために、何が強みなのかを知ることが大切である。
- ポイントとして、聴覚的情報、全体への注目、実行機能、計画と整理統合、時間管理、心の理論、社会的認知、ルールに基づいた学習、ルーティンの使用、視覚的情報、細部への注目、限定的な興味、暗黙的学習、自動的学習、般化、動機を高める（興味や関心）ことについて考えることが重要。

### 構造化とは

- 伝えたいことをわかりやすく伝えるためのコミュニケーション手段であり、目に見えにくい意味をわかりやすく伝えるための手段。わかりやすく安心して、やりたくなる、一人でできる、自尊心、自己効力感が育つ。
- 不適切な支援（言葉のみや叱ること、その人の理解に合わせない支援）を続けると拒否やストレスを感じ、問題行動の増加や二次障害につながることもある。
- 構造化を考える上で「4W1H」が重要。どこで（物理的構造化）いつ（スケジュール）何を（ワークシステム、スケジュール）いつまで、どのくらい（ワークシステム、課題の組織化）どのように（ワークシステム、ジグ）終わったらどうするか（スケジュール、ワークシステム）を本人の好きなことや興味のあることを軸に支援を組み立てる。

## 構造化の工夫のいろいろ

- 自立的に行動しやすくする工夫、安心できる、やりたくなる工夫。
- 「物理的構造化」明確な視覚的境界を設定し、刺激を除去し、活動と場所を1対1で対応させる。
- 「スケジュール」時間的見通しを示す方法。活動の流れを示し、いつ、何をするのかを伝える。変更を示す方法。
- 「ワークシステム」自立的に生活するために必要な情報を伝える方法。①何をするのか②どのようにするのか③どれだけするのか④どうしたら終わるのか⑤次に何をするのか。
- 「視覚的構造化」見ただけで分かる工夫。視覚的指示（課題を達成する流れを視覚的に示す）視覚的明瞭化（重要な情報を視覚的に強調する）視覚的組織化（材料や空間を組織化して整理統合）

## 自発的に行動するために

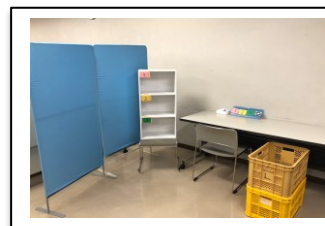
- わかりやすい環境、視覚的なかわり方が大切。本人の思考や行動からどのような理解をしているのかを常にアセスメントすること。支援の基本として背伸びせず本人がしっかりとわかること、調子の良い時ではなく調子の悪い時に合わせた支援をする。
- 支援者が支援する時に新しいスキルを教えるのか、表現のコミュニケーションを教えるのか、社会性を育てるルールを教えるのか、余暇を豊かにするのか、日常生活の自立を目指すのか目的を明確にすることが本人の自分自身を知っていくことにつながり、ウェルビーイングにつながる。

## 実践セミナー「自立課題の作成」



8月25日（日）、実践セミナー「自立課題の作成」を開催しました。午前中、千葉県発達障害者支援センター副センター長の「田熊立」氏より、自閉症の特性理解として、自閉症の三つ組みの特性や感覚の特性、学習スタイルや注意の向け方、物理的構造化やスケジュール、ワークシステムや視覚的構造化等、自閉症のある人が一人で活動できる分かりやすい生活についてお話いただきました。

午後の自立課題の作成では、今回、自閉症のある成人の方を協力者として依頼し、実際に、受講生が作成した自立課題に取り組んでいただくこととしました。協力者の方のプロフィールシート（特性や理解のレベル、興味関心のあるものは何か等のアセスメント内容）を基に、どんな自立課題が適切なのか受講生同士で相談しながら、自立課題の領域（ブックインや分類、組立て分解等）ごとに自立課題を作成しました。作成後は、協力者の方に自立課題に取り組んでいただきました。取り組む自立課題は、どのような意図があり、どのような活動内容なのか、説明を受けずに取り組むため、作成者の狙いをどのくらい理解しているか、視覚的に分かりやすいものになっているか、協力者の方の反応でよく分かりました。実演後は、作成した意図と活動内容について受講生から説明があり、田熊先生から講評をいただきました。



自立課題の作成では、アセスメントから本人の特性や得意な点をしっかりと把握（今回はプロフィールシートで代行）することの大切さ、視覚的指示や視覚的明瞭化、視覚的組織化の大切さを改めて感じました。

### 千葉県 TEACCH プログラム研究会第4回連続セミナー紹介

日時：2024年10月27日（日）14:00～16:30

内容：自閉症のある子どものペアレントトレーニング～多様な支援の在り方と実際～

講師：井上雅彦（鳥取大学医学部教授）

会場：千葉県教育会館303会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

【編集後記】「ぼよよんと頭に浮かぶものを支援する」という言葉が今回のセミナーで印象に残りました。どれだけイメージできるか、どこでもやれることをルーティンにしておくことも実感しました。安心→やれる→自信→肯定感ということを現場で生かしていきたいです。ジェネラリスト五味先生をお手本にしたいです。（吉村）